

科目名	専門特殊講義Ⅰ(実践特許法)
	知的財産活用による事業戦略
教員名	杉山 務

【授業の内容】

企業の顔として馴染みのブランドがあり、これを支えている技術があり、技術に関する権利が保護されることにより企業の持続と発展が実現されています。

授業では、身の回りにある製品や企業を発展させた製品について、知的財産制度がどのように活用されたかを見ることにより、将来の権利の活用と新しい製品の開発方向を検討します。

【到達目標】

知的財産権が活用されている事例を理解し、各事例の重要な面を説明できるようになり、合わせて知的財産の重要性と有効性を、事例を挙げながら説明できるようになります。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：授業の進め方、準備、シラバス説明
- 第2回 社会・経営の変容とイノベーションモデルの変遷
- 第3回 事業経営における知財マネジメント、模倣品・海賊版
- 第4回 標準化「匠の技」「品質管理」日本の強みと弱み
- 第5回 独立市場形成型、技術相互利用型モデル、一製品少数特許と多数特許
- 第6回 基幹部品主導型、完成品主導型モデルと知財マネジメント
- 第7回 知財活用ビジネスモデル、ソリューションビジネスとオペレーションビジネス
- 第8回 ブランドの知財マネジメント、地域ブランド 商標検索
- 第9回 中堅・中小企業経営、ビジネスモデル開発競争、オープン戦略、三位一体経営と知財マネジメント

※ この回から報告書作成に取り掛かります

- 第10回 ネットや図書館あるいは企業から直接情報を入手し、報告書作成開始、報告テーマ紹介
- 第11回 企業の知的財産戦略を調査して資料を作成 進捗状況発表その2
- 第12回 企業の特許権の状況 IPDL（特許電子図書館）を利用して調査・発表
- 第13回 前回に続き、授業はIPDLを利用
- 第14回 各自調査内容についてプレゼンを行い、教訓となる学びを紹介
- 第15回 全体纏めと最新知財情報の紹介

【授業の進め方】

受講生の予習を前提に、重要な点を解説し、受講生は疑問点を質問し、他者はその質問に対する意見を表明し相互に意見を交わすことにより授業が進みます。

【教科書(必ず購入すべきもの)】

追って指示

【参考図書】

- ・Web：平成25年度知的財産権制度説明会(初心者向け)テキスト2013.8.13
特許庁⇒特許⇒知的財産制度の概要 http://www.jpo.go.jp/cgi/link.cgi?url=/seido/s_gaiyou/chizai02.htm

【成績評価の方法】

- ①具体的な評価方法
 - ・発表等貢献、中間報告、発表 ・試験に替える報告書
- ②評価方法の比率
 - ・貢献10%、中間報告及び発表20% ・最終報告書70%

【「成績評価の方法」に関する注意点】

報告書は、自分で選出した製品又は事業者に焦点をあて、その活用を報告書としてまとめます。

【履修上の心得】

自分で考えながらの受講が求められます。

【科目のレベル、前提科目など】

前提とする科目はありません。知的財産の世界は変化が激しいことから、新しいことへの知識欲や未知への知的好奇心があれば面白い科目であり、授業の理解を助ける有用な手段となります。